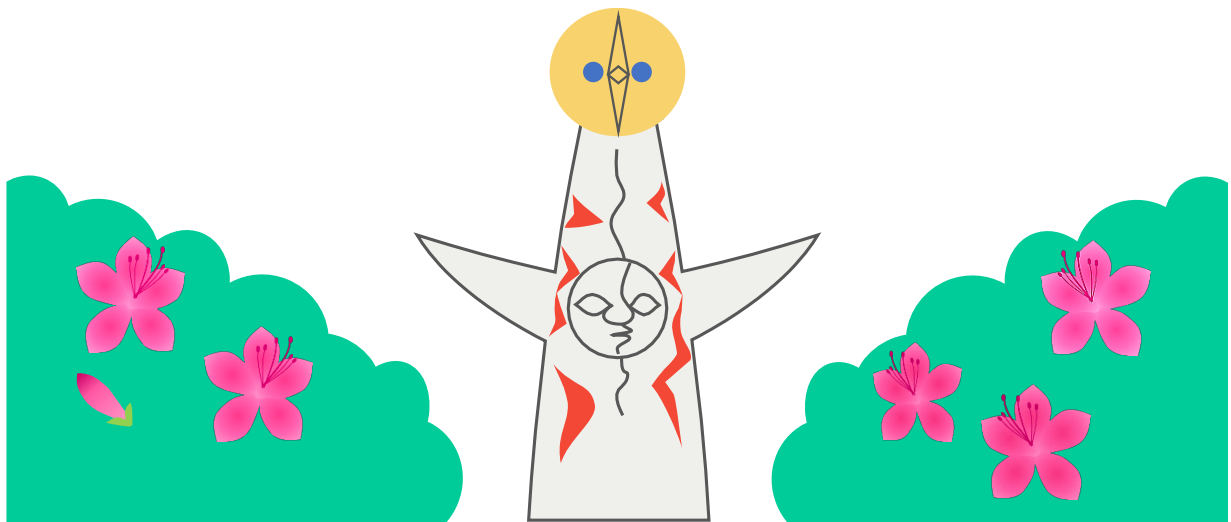


吹田市国民健康保険 第2期データヘルス計画 中間評価

概要版

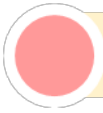
令和3年3月

吹田市



目次

【データヘルス計画の背景と目的】	1
【中間評価の方法】	2
【計画策定にて判明した課題・対策と保健事業】	3
【中間評価の概要】	5
特定健康診査未受診者対策・新規対象者対策	5
特定保健指導実施率の向上・受診勧奨の実施	6
糖尿病性腎症重症化予防事業	7
非肥満 血圧・血糖高値者受診勧奨事業	9
生活習慣病予防の啓発	10
がん検診	11
たばこ対策	13
成人歯科健康診査	14
30歳代健康診査	15



【データヘルス計画の背景と目的】



我が国では、少子高齢化や疾病構造の変化が進む中で国民の健康増進を図るため「二十一世紀における第二次国民健康づくり運動（健康日本21（第二次）」が展開されています。

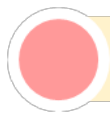
データヘルス計画は、国民の健康を支え、守るための社会環境の整備の一環として、保険者機能をさらに推進していくものです。市町村国保は、健診・レセプト（診療）データの分析に基づいて保健事業をPDCA サイクルで効果的・効率的に実施するための事業計画を策定し、評価を行うとされています。

こうした背景を踏まえ、吹田市においても、健康・医療情報を分析し健康課題を明確にしたうえで保健事業を実施するために、吹田市国民健康保険データヘルス計画（以下、「データヘルス計画」）を策定・評価し、吹田市民の健康の保持増進および医療費の適正化を目指すことを目的としています。

本データヘルス計画は、吹田市民の健康増進、疾病予防、重症化予防に資することから、「健康すいた21（吹田市健康増進計画（第2次）」をはじめ、その他計画と整合を図ります。

データヘルス計画の計画期間は、「国民健康保険法に基づく保健事業の実施等に関する指針」第4の5において、「特定健康診査等実施計画及び健康増進計画との整合性を踏まえ、複数年とすること」とされていることから、第三期特定健康診査等実施計画期間に合わせて平成30年度から令和5年度までの6年間としています。

この報告書では、吹田市国民健康保険加入者の健康情報等を分析し、平成29年度から令和元年度までに実施した事業の評価と見直しを行い、令和3年度から令和5年度に実施する保健事業について検討します。



【中間評価の方法】

各保健事業について、実施内容、実績評価、成果指標の評価、平成29年度から令和元年度のデータを踏まえて各事業を総合的に評価し、課題や修正を提示します。

「実績評価」、「成果指標」・・・ベースラインと比較して評価します

評価基準：A 改善している、B 変わらない、C 悪化している、D 評価困難

「事業評価」・・・「実績評価」「成果指標」を踏まえて目的の達成状況を評価します

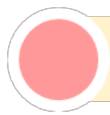
評価基準：A 目的を達成

B 目的は達成できていないが達成の可能性が高い

C 目的の達成は難しいがある程度の効果はある

D 目的の達成は困難で効果があるとは思えない

E 評価困難




【計画策定にて判明した課題・対策と保健事業】

健康課題1	特定健康診査の受診率が微減傾向にあり、40歳代、50歳代の若い年齢層（特に男性）の受診率が低い
対策	特定健康診査の受診率向上のため、個別勧奨の充実を図り、医療機関との連携した受診勧奨を行う
保健事業名称	特定健康診査未受診者対策・新規対象者対策
健康課題2	特定保健指導の実施率が低い
対策	特定保健指導を特定健康診査の結果説明時に医療機関で実施し、特定保健指導実施率向上を図る
保健事業名称	特定保健指導実施率向上・受講勧奨の実施
健康課題3	腎不全の患者一人当たりの医療費が高額であり、その原因となる主な疾患は糖尿病性腎症である
対策	医療機関と連携した糖尿病性腎症重症化予防事業を実施する
保健事業名称	糖尿病性腎症重症化予防事業
健康課題4	高血圧治療中の者において、Ⅱ・Ⅲ度高血圧に該当するコントロール不良者が存在する 高血圧は疾病別医療費第3位であり、生活習慣病にかかる医療費は第2位となっている
対策	未治療の血圧高値者には受診勧奨を行い、治療中の血圧コントロール不良者には受診状況の確認等を行い、重症化を予防する
保健事業名称	非肥満 血圧・血糖高値者受診勧奨事業
健康課題5	HbA1cの有所見者割合が74.3%であり、未治療でHbA1c7.0%以上の者が存在する
対策	未治療の血糖高値者には受診勧奨を行い、重症化を予防する
保健事業名称	非肥満 血圧・血糖高値者受診勧奨事業
健康課題6	特定健康診査、30歳代健康診査において糖尿病に関する有所見者割合が高い 血圧および血糖値において医療機関に受診が必要な値であっても、未治療の者が多く存在する また、治療中であってもコントロール不良者が存在する
対策	健康教室、イベント等で生活習慣病の発症予防のための事業を展開する 特定保健指導対象者で収縮期血圧140mmHg以上または拡張期血圧90mmHg以上の者に受診勧奨を実施する 収縮期血圧160mmHg以上または拡張期血圧100mmHg以上の者に受診勧奨と受診確認を実施する 未治療でHbA1c6.5%以上の者に受診勧奨を実施する
保健事業名称	非肥満 血圧・血糖高値者受診勧奨事業、生活習慣病予防の啓発

健康課題7	30歳代健康診査の受診率が40歳以上の特定健康診査と比較して低い
対策	受診勧奨はがきを送付し、受診率向上を図る
保健事業名称	30歳代健康診査
健康課題8	30歳代、40歳代、50歳代の若い年齢層での喫煙率が高い
対策	健康教室、イベント等で禁煙、COPDの発症予防のための事業を展開する 禁煙治療費一部助成制度や禁煙相談等の啓発を行う
保健事業名称	たばこ対策
健康課題9	成人歯科健康診査の受診率は特定健診の受診率より低く、特に60歳未満の受診率が低い
対策	若い世代を含む幅広い層への働きかけとして30歳代健診、がん検診の受診勧奨案内に 成人歯科検診の案内を掲載する
保健事業名称	成人歯科健康診査
健康課題10	歯周病の治療の目安となる4mm以上の歯周ポケットを有する者は受診者の67.6%と半数を 超えており、年齢が上がるにつれて割合が高くなっている
対策	成人歯科健康診査の受診率の向上を図り、適切な口腔の健康管理の支援につなげる
保健事業名称	成人歯科健康診査
健康課題11	がん検診の受診率が低い
対策	受診勧奨はがきを送付し、がん検診の受診率を向上させる
保健事業名称	がん検診

【中間評価の概要】

保健事業名称	事業評価
特定健康診査未受診者対策・新規対象者対策	 目的は達成できていないが達成の可能性が高い

実施内容

◆対象

年度内に特定健診を受診していない者（未受診者）

◆実施方法（令和元年度以降）

令和元年度から業者委託により実施。

主に健診受診歴を基に勧奨の対象者（10,000人）を抽出する。対象者の特徴毎のグループに分け、そのグループ毎に異なる受診勧奨文書を作成する。当該文書には未受診理由などを問うアンケートを付属する。発送後、受診の有無を確認すると共に、アンケートの集計を行う。

令和元年度は下記①～③のグループに分けて実施。なお、アンケート返信用に郵送料が必要となるため、対象者を当初予定の半数（5,000人）とした。

発送後、受診の有無を確認すると共に、アンケートの集計を行う。

- ①皆勤グループ：過去4年度に渡って毎年度受診しているが、当該年度受診していない者
- ②ひと休みグループ：過去4年度の内、昨年度を除いて3回受診しており、また当該年度受診していない者
- ③無関心グループ：過去4年度の内、1回も受診しておらず、当該年度も受診していない者

実績評価目標	評価
電話・訪問・文書による勧奨	B


成果指標目標		実績値				評価
指標	目標値	平成28年度 (ベースライン)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
受診率	52%	46.0%	45.7%	45.3%	44.5%	C 悪化している

達成・未達要因

- ・比較的受診率の高い高齢層の被保険者が順次後期高齢者医療保険に移行していること、若年層の受診率が低いことが受診率の減少に影響していると考えられる。

目標実現に向けた取り組みと改善策

- ・受診率向上に向けてより効果的な受診勧奨を行うため、勧奨通知送付後の電話勧奨について今後検討していく。
- ・勧奨対象者や件数、勧奨の時期等を見直して実施する。特定健診のさらなる周知を図る。

保健事業名称	事業評価
特定保健指導実施率の向上・受診勧奨の実施	 目的を達成

実施内容

◆対象

吹田市国保健康診査等において動機付け支援・積極的支援と判定された者

◆実施方法

内臓脂肪解消セミナー（集団支援）（平成30年12月で終了）

1グループ8名以下のグループ支援

メタボリックシンドローム予防相談（個別支援）

受講3か月または6か月後に目標達成度についてのアンケートを実施した。

（平成29年度特定健診受診者は6か月後評価、平成30年度特定健診受診者は3か月後評価を実施）

また、積極的支援判定者には、3か月以上の継続支援を実施した。

動機付け支援（初回面接）を医師会に、積極的支援（個別支援）を民間事業者に委託

（平成30年9月～）

積極的支援対象者に特定保健指導の利用券を送付し、3か月以上の継続支援を実施した。

積極的支援対象者で自主申込みのない者には電話にて利用勧奨した。

実績評価目標	評価
利用勧奨実施率100%	A


成果指標目標		実績値				評価
指標	目標値	平成28年度 (ベースライン)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
特定保健指導 実施率	80% (達成時期:令和5年度)	7.3%	6.8%	23.3%	33.5%	A 改善している

達成・未達要因

- ・積極的支援対象者かつ自主申込みのない者に対する未利用勧奨は100%実施できている。
- ・動機付け支援を医師会に委託したことで、健診結果説明と同時に特定保健指導を受講できるようになり実施率はある程度向上したが、特定保健指導を希望されない方や実施しない医療機関があった。
- ・目標値の80%については国・府の目標に合わせて、目標値を特定保健指導実施率60%に変更する。

目標実現に向けた取り組みと改善策

- ・積極的支援対象者かつ自主申込みのない者に対する利用勧奨を継続する。
- ・動機付け支援を委託先の吹田市医師会へ引き続き受講率向上のための協力を依頼していく。

保健事業名称	事業評価
糖尿病性腎症重症化予防事業	 目的は達成できていないが達成の可能性が高い

実施内容

1 糖尿病治療中

◆対象

特定健診を受診した者のうち問診で糖尿病治療ありと回答し、かつ以下の条件に該当する者
 (平成30年8月から19協力医療機関の対象者に実施)

(ア) HbA1c6.5%以上

(イ) 尿蛋白(+)以上、または血清クレアチニン検査によるeGFR30~89mL/分/1.73m²

◆実施方法

健診受診月の3か月後に本事業の案内リーフレットを送付し、その後、電話や訪問等で生活状況の把握及び事業の参加勧奨を行った。

事業の参加を希望した者には、主治医と連携し、6か月間の保健指導を実施した。

2 糖尿病未治療

◆対象

特定健診を受診した者のうち問診で糖尿病治療なしと回答し、かつ以下の条件に該当する者

(ア) HbA1c6.5%以上

(イ) 尿蛋白(+)以上、または血清クレアチニン検査によるeGFR30~89mL/分/1.73m²

◆実施方法

受診勧奨リーフレット送付後、電話や訪問等で受診状況の確認や生活改善のための保健指導を電話で実施した。また、受診者には継続受診を促し、未受診者には受診勧奨を行った。

実績評価目標	評価
6年間の累積実施者数300人以上	D

- ・実績評価を「累積実施者数」から「累積参加者数」へ文言を変更する。
- ・実績評価の目標に「受診勧奨実施率100%」を追加する。


成果指標目標		実績値				評価
指標	目標値	平成28年度 (ベースライン)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
①HbA1c6.5%以上者の減少	減少	10.8%	10.8%	10.1%	10.8%	B 変わらない
②糖尿病患者の新規人工透析者数の抑制	減少	46人	48人	66人	41人	B 変わらない

達成・未達要因

- 平成30年度から医療機関と連携して事業を実施した。
- 短期間では評価が困難なため、令和5年度に評価する。

目標実現に向けた取り組みと改善策

- 糖尿病治療中の者に対する保健指導について、協力医療機関数が19医療機関と限られているため、事業の趣旨・効果について周知し協力を依頼していく。
- 今後、健診を受診していない治療中断者へのアプローチについても検討を行う。

保健事業名称	事業評価
非肥満 血圧・血糖高値者受診勧奨事業	 目的は達成できていないが達成の可能性が高い

実施内容

◆対象

血圧高値者受診勧奨事業

収縮期血圧160mmHg以上又は拡張期血圧100mmHg以上、40歳～74歳の被保険者

血糖高値者受診勧奨事業

HbA1c6.5%以上、40歳～74歳で糖尿病未治療の被保険者

◆実施方法

対象者に受診勧奨リーフレットを送付し、電話や訪問等で受診状況の確認や生活改善のための保健指導を電話で実施した。受診者には継続受診を促し、未受診者には受診勧奨を行った。

肥満があるが、特定保健指導対象外となる上記血圧値や、血糖値に該当する者にも別途受診勧奨を行っている。

実績評価目標	評価
受診勧奨実施率100%	A


成果指標目標		実績値				評価
指標	目標値	平成28年度 (ベースライン)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
①HbA1c 有所見者率の減少	減少	74.0%	75.1%	69.5%	74.3%	B 変わらない
②非肥満かつ未治療かつ HbA1c 高値者(7.0%)率の減少	減少	0.3%	0.4%	0.3%	0.3%	B 変わらない
③収縮期血圧有所見者数の減少	減少	4,436人	5,513人	4,755人	4,304人	A 改善している
④非肥満でⅡ度以上 高血圧者率の減少	減少	3.0%	3.9%	3.9%	3.8%	B 変わらない

達成・未達要因

- ・受診勧奨事業の対象者には全員アプローチすることができた。
- ・短期間では評価が困難なため、令和5年度に評価する。

目標実現に向けた取り組みと改善策

- ・対象者や実施方法の見直しながら継続して事業を実施する。
- ・保健事業の対象を収縮期血圧160mmHg以上又は拡張期血圧100mmHg以上、40歳～74歳の被保険者とし、保健事業名を「血圧・血糖高値者受診勧奨事業」と変更する。
- ・引き続き、文書送付後受診できている者には、継続受診と生活習慣の改善に向けた保健事業を実施する。

保健事業名称	事業評価
生活習慣病予防の啓発	 目的は達成できていないが達成の可能性が高い

実施内容

◆対象

全市民

◆実施方法

健康情報拠点推進事業で減塩や野菜の摂取を啓発した。
市民健康教室、血圧・血糖高値者受診勧奨事業などを実施した。

実績評価目標	評価
①健康教室、キャンペーン等の実施 ②すいた健康サポーター事業の実施 ③健康情報拠点推進事業での啓発活動 ④食育講演会の実施 ⑤胃、肺、大腸がん検診（集団）での血圧測定の実施	A


成果指標目標		実績値				評価
指標	目標値	平成28年度 (ベースライン)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
①有所見者数の減少(延べ人数)	減少	66,355人	83,144人	68,928人	65,376人	A 改善している
②特定健診受診率の向上	52%	46.0%	45.7%	45.3%	44.5%	C 悪化している

達成・未達要因

- ・有所見者数の減少については、短期間では評価が困難なため、令和5年度に評価する。
- ・特定健診の受診率については、40歳～50歳代の受診率が低く、働く世代の健診への意識が低い。

目標実現に向けた取り組みと改善策

- ・引き続き、市民の健康課題に即した健康教室やキャンペーン、SNSを活用した啓発など様々な取り組みを推進する。
- ・働く世代への取り組みとして、令和2年4月の受診者から、30歳代健康診査の受診者で、血圧・血糖の高値者に対して、電話や訪問による受診勧奨と保健指導を実施。
また、令和3年4月から30歳代健康審査受診者全員に健診結果の見方や食事、運動などの生活習慣の改善に関するパンフレットを配布。オーラルケアやフレイルの予防についても掲載する。
- ・令和2年11月より、国立循環器病研究センターと吹田市医師会と覚書を締結し、心不全予防の啓発と重症化予防事業を実施。

保健事業名称	事業評価
がん検診	 目的の達成は難しいがある程度の効果はある

実施内容

◆対象

- 胃がん検診 : 満50歳以上の市民 乳がん検診 : 満40歳以上の市民
 肺がん検診 : 満40歳以上の市民 子宮がん検診 : 満20歳以上の市民
 大腸がん検診 : 満40歳以上の市民

◆実施方法

平成28年度から20～30歳代偶数年齢になる女性に子宮がん検診の案内、40～60歳までの偶数年齢になる女性に胃・肺・大腸・乳・子宮がん検診の案内、40～60歳までの奇数年齢になる女性及び40～60歳までの男性に胃・肺・大腸がん検診の受診勧奨ハガキを送付した。
 SNSでの啓発や商業施設でのチラシの配架により啓発した。
 乳幼児健診や予防接種の案内等で保護者向けのがん検診のチラシを配布した。

実績評価目標	評価
がん検診受診勧奨はがき配布累積枚数	D

- ・目標をがん検診受診勧奨はがき配布累積枚数としているが、効果的・効率的な対象に実施するため、令和3年度から、送付対象者を絞り、また国立がん研究センターが開発した資材等を活用した内容に見直すため、評価指標を以下に変更する。

- ①健（検）早わかりガイドの全戸配布
- ②効果的な受診勧奨資材の見直し
- ③ラインセグメントの健診・検診・予防接種の情報の登録数
- ④SNS・ホームページ等を活用した啓発

成果指標目標			実績値				評価
指標	目標値		平成28年度 (ベースライン)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
受診率	①胃がん	4.9%	5.8%	5.9%	5.2%	4.5%	C 悪化している
	②肺がん	24.5%	23.9%	24.2%	21.7%	20.9%	
	③大腸がん	30.5%	28.7%	28.2%	24.2%	22.6%	
	④乳がん	50.0%	49.3%	48.2%	44.1%	41.0%	
	⑤子宮がん	50.0%	40.3%	43.7%	41.1%	39.2%	


- ・成果指標について、市民全体の市のがん検診の受診率を目標値としているが、職場等で受診している者も多く、市民の実態と乖離している。このため、今後は成果指標に国民健康保険加入者の市のがん検診の受診率を追加する。

達成・未達要因

- 市民意識調査により、職場等で受けている人の割合が平成26年度より平成30年度で増えている。
- 平成30年度の結果では、胃がん検診45.2%、肺がん検診52.1%、大腸がん検診48.8%、乳がん検診50.3%、子宮がん検診47.4%であり、市のがん検診以外を受診している人も多い。
- 個別受診勧奨を実施することはがん検診の受診率向上を目指す上で効果的な手段ではあるが、毎年送付しても受診しない人も多く、受診率の向上につながっていない。また、令和元年度に行った健康に関する市民意識アンケートでは、がん検診を受けない理由として「特にない」が22.3%、「忙しいから」20.0%、「面倒だから」19.0%であり、がん検診への理解が十分でない。

目標実現に向けた 取り組みと改善策

- 国民健康保険加入者のがん検診受診率向上のため、現在希望者のみに送付している助成証明書の申請方法の見直しを検討し利用者の拡大を図る。
- 令和3年2月からラインセグメント配信を開始し、誕生日を登録すると受診月にその年の受診可能な検診の案内が届く取り組みを開始。今後は市報などでPRを実施していく。
- 受診勧奨資材の見直しと効果的な層への受診方法に変更する。
- 令和3年度よりがん検診について正しい知識や受診方法を啓発する「早わかりガイド」を作成し、全戸配布予定である。

保健事業名称	事業評価
たばこ対策	 目的は達成できていないが達成の可能性が高い

実施内容

◆対象

全市民のうち、喫煙者

◆実施方法

禁煙治療費一部助成制度を実施した。
 集団肺がん検診で喫煙者に禁煙相談を実施した。
 医療機関での肺がん検診で喫煙者に禁煙相談を実施した。
 産業フェアやみんなの健康展等で COPD を啓発した。
 市の職員の禁煙の取り組みを通して市民に禁煙の必要性を発信した。

実績評価目標	評価
①禁煙治療費一部助成事業 ②禁煙相談	B

成果指標目標		実績値				評価
指標	目標値	平成28年度 (ベースライン)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
①事業利用者数の増加	増加	—	111人	88人	66人	C 悪化している
②禁煙相談者数の増加	増加	362人	465人	392人	377人	A 改善している
③喫煙率の減少(男女) (吹田市国保加入者)	男性19.3%以下 女性5.0%以下	男性21.3% 女性6.0%	男性20.8% 女性6.0%	男性20.6% 女性6.0%	男性20.6% 女性5.7%	B 変わらない
④COPD 認知率の増加	80.0%以上	44.0%	—	—	41.5%	C 悪化している


- 成果指標①「事業利用者数」の目標値を以下の通り設定する。
(令和3年度90人、令和4年度100人、令和5年度110人)

達成・未達要因

- 達成要因としては、本市では「スモークフリー（たばこの煙のないまち）すいた」の実現を目指して、喫煙者本人の健康を守り、かつ受動喫煙を防止するために、全庁を挙げて受動喫煙の防止や禁煙に向けた取り組みを推進。多くの市民が集うイベントや店舗等での啓発や、薬剤師会や民間の保険会社などと連携し、幅広い年齢層の市民に対し、事業の周知に努めた。また、健康増進法の改正もあり、たばこを吸いにくく、環境の整備が進んだことも要因と考える。
- 未達要因としては、市民アンケートからも一定層たばこをやめる気がない人がおり、やめたい人と二極化している傾向があった。また、電子タバコの利用者が増えてきており、電子タバコの害についての知識不足により、禁煙しなくてもいいと思っている人もおり、啓発していく必要がある。

目標実現に向けた取り組みと改善策

- 引き続き、総合的なたばこ対策を推進。
- 大学や企業等との連携や SNS 等を活用し、若者や子育て世代、働く世代への啓発や事業周知を強化。

保健事業名称	事業評価
成人歯科健康診査	 目的を達成

実施内容

◆対象

- ・満30歳以上の市民
- ・障がい者施設・作業所などに通っていない満15歳から74歳で、身体障がい者手帳1～4級、療育手帳、判定書か精神障がい者保健福祉手帳を持つ人

◆実施方法

受診率の向上に向けて、がん検診等の個別受診勧奨ハガキに成人歯科健診の案内を掲載した。乳幼児健診の場でちらしを配布し、保護者のオーラルケアや歯科健診の必要性を伝えた。食育講演会、歯と歯ぐきの健康教室を開催し、口腔衛生の啓発を実施した。

実績評価目標	評価
①歯と歯ぐきの健康教室の実施 ②すいた健康サポーター事業の実施 ③健康情報拠点推進事業での啓発活動 ④食育講演会の実施 ⑤がん検診・30歳代健診受診勧奨に成人歯科健康診査の案内を掲載	A


成果指標目標			実績値				評価
指標	目標値		平成28年度 (ベースライン)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
①受診率の向上	全体	12.2%以上	9.4%	10.0%	10.3%	10.6%	B 変わらない
	60歳未満	7.2%以上	7.6%	8.3%	9.3%	9.9%	
②4mm以上の歯周ポケットを有する人の割合減少	全体	67.6%以下	64.3%	63.3%	58.6%	61.7%	B 変わらない
	35～44歳	56.4%以下	54.0%	52.9%	50.7%	55.1%	
	45～54歳	60.6%以下	59.3%	59.1%	56.4%	60.2%	

達成・未達要因

- ・がん検診等の個別受診勧奨ハガキに成人歯科健診の案内を掲載。

目標実現に向けた取り組みと改善策

- ・令和3年4月受診者から30歳代健康診査受診者全員に生活習慣の改善に向けたパンフレットを配布。オーラルケアについても記載。また、令和3年10月以降に健（検）診早わかりガイドの全戸配布を予定しており、歯科健診の周知を予定。
- ・令和3年2月からはラインセグメント配信を開始し、誕生日を登録すると受診月に健診の案内が届く取り組みを開始。今後は市報などで登録のPRを実施していく。
- ・歯周病は治癒しにくく早期発見早期対応が必要なことから受診対象年齢の引き下げや未受診者勧奨について検討する。

保健事業名称	事業評価
30歳代健康診査	 目的の達成は難しいが ある程度の効果はある

実施内容

◆対象

満30歳以上39歳以下の市民、満40歳以上の生活保護受給者
 （事業所等で健診を受ける人及び現在治療中の者は除く）

◆実施方法

受診率の向上に向けて平成28年より対象者全員に個別勧奨ハガキを送付した。
 乳幼児健診で保護者に市の実施する健（検）診のチラシを配布した。

実績評価目標	評価
受診勧奨実施率100%	A

成果指標目標		実績値				評価
指標	目標値	平成28年度 (ベースライン)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
受診率向上	向上	8.9%	8.4%	6.9%	6.2%	C 悪化している

達成・未達要因

- 平成30年度に実施した吹田市市民意識調査では、30歳代の回答者のうち、66.9%が健診等の受診の機会があると回答し、そのうちの83.8%が職場等と回答。
- 平成28年度以降、個別勧奨資材の見直しができていない。

目標実現に向けた
取り組みと改善策

- 個別受診勧奨方法の見直しを行い、令和3年度より「満30歳の対象者への受診勧奨」を実施するとともに、令和3年2月からはラインセグメント配信を開始し、誕生日を登録すると受診月に健診の案内が届く取り組みを開始。
- 今後は市報などで登録のPR を実施していく。

吹田市 健康医療部 国民健康保険課

住所：〒564-8550

吹田市泉町1丁目3番40号

電話：06-6384-1239

ホームページ：<http://www.city.suita.osaka.jp/>